

学長挨拶

大阪府立大学

学長 辻 洋



『第57回友好祭の開催に寄せて』

第57回友好祭の開催おめでとうございます。本学を代表してお祝い申し上げます。

この友好祭は1962年に大阪府立の大学同士の団結を深めることを目的として始まりました。現在では、当時の府立3大学は統合されましたが、中百舌鳥、羽曳野、りんくうキャンパスに通う学生同士の交流や、学生だけでなく教職員、地域の方同士が交流する場として、「友好祭」という名に相応しく、大きな盛り上がりを見せる本学の春の風物詩となっています。

今年のメインテーマは「祭色兼美」です。一人ひとりの異なる“色”をした個性を合わせて全力を尽くす中には、努力や友情といった形にできない“美”しさが存在する。そんな“色”や“美”を“兼”ね備えた友好“祭”にしたい、そんな思いが込められていると伺っております。

学生達はこの日のために、実に半年もの時間を費やして準備をしてきました。本日皆様ご覧になる出し物は、学生が自分達で企画し、学域や学年も異なる彼ら一人ひとりがそれぞれの個性を生かし、努力の末に作り上げてきたものです。そこには、先程申し上げた、彼らなりの美しさが存在することでしょう。来場者の皆様にも、その美しさを感じていただければ幸いに思います。この友好祭という場を使って、学生、教職員、地域の皆様方で交流を深めていただき、3者すべての個性が輝く「祭色兼美」な2日間となることを祈っています。それは本学の目指す、垣根のない大学となるために、必要不可欠なことだと思います。このテーマに沿った企画を通じて、垣根を取り払う一助となってくれることを期待しています。

末筆ながら、友好祭の開催に尽力してこられた実行委員をはじめ、関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、この友好祭に参加するすべての方にとって、素晴らしい時間となるように願っています。

委員長挨拶

第57回友好祭実行委員会

委員長 宇佐美 一樹



『友好祭開催に添えて』

青葉繁れる好季節を迎え、大阪府立大学中百舌鳥キャンパスにて第57回友好祭が開催されようとしています。

1962年の秋、大阪府立系3大学が移転・統廃合問題などの解決に協力して取り組んだことから誕生した友好祭ですが、それからはや57年の年月が経ちました。友好祭の活動は結成当初から大きく変わり、現在では“本祭典の開催を中心に、大学・地域の活性化につなげる活動を委員一丸となって展開し、その過程で様々な人と友好の輪を拡げ、楽しさの共有を行う。”という基本方針の下、年間を通じて様々な活動を行っています。また、友好祭実行委員会はすべてのキャンパスの学生が参加でき、大阪府立大学の学生にとって交流の場となっております。

友好祭実行委員会は、五月下旬のわずか二日間のために、一年という時間をかけて準備をしております。その二日間が無事成功して初めて共有できる達成感、それこそが友好祭実行委員会の良さだと考えます。今年度の実行委員も、来場者や出展(店)者の皆様にとって、そして自分たちにとって、友好祭の二日間がかけがえのないものとなるよう、全力で準備をして参りました。私たち実行委員の一年分の気持ちが詰め込まれた第57回友好祭を是非お楽しみ下さい。

さて、第57回友好祭のメインテーマは『祭色兼美』です。このメインテーマには、中百舌鳥キャンパスを「美しいお祭り色」に染められるような友好祭を創りたいという委員会の想いが込められています。来場者の皆様には、第57回友好祭の魅せる「祭色」を余すことなく堪能していただければと思っています。

末筆になりましたが、第57回友好祭を開催するにあたって、友好祭に関わってくださる全ての皆様に深く感謝し、委員長の挨拶とさせていただきます。